

国立国語研究所学術情報リポジトリ

国語研の窓 第8号 (2001年7月1日発行)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001953

国語研の窓

8号

平成13年7月1日 第8号 発行 独立行政法人国立国語研究所
Independent Administrative Institution: The National Institute for Japanese Language

編集 国立国語研究所広報委員会

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

電話 03-3900-3111 FAX 03-3906-3530

URL <http://www.kokken.go.jp/>



もくじ

暮らしに生きることば 1

研究室から 「談話を通してみる日々の営み」 2

解説 「敬意表現」とは? 4

ことば・社会・世界

「学ぶための日本語」から「生きるための日本語」へ
—外国人受け入れ事情の変化と日本語教育— 5

ことばQ&A 6

新刊書目 6

新刊紹介 7

ことばフォーラム案内 8

開催記録 8

暮らしに 生きる ことば

「つうかあ」

「つうといえばかあ」、「つうかあの仲」といえば、人間同士の意思疎通がうまくいっている状態を表現するときの言葉ですが、この「つう」と「かあ」のもともとの形は、「つ」と「か」といわれています。品詞としては、「つ」も「か」も終助詞と呼ばれるもので、文の一番終わりに使われて、その文全体に意味を添える種類の言葉です。

「かあ」は、終助詞「か」のいくつかある働きのうち、自問するときを使うものがもととなっています。「1万5千円、か。」と、商品の値札を見ながらひとりごとのように言うときの「か」です。その使い方からちょっと変化して、だれもが知っている歌の一節を歌うようなとき、「うさぎおいしかのやまあ…ってかあ。」と言ったりしますね、その「てかあ」の「かあ」が、「つうかあ」の「かあ」です。

では、「つ」の方はどうでしょうか。こちらは、今

の言い方ですと、「～だとさ」というときの、「とさ」にあたるものです。明治のころの雑誌記事に、舟を漕ぐとき、名人は（腕力ではなく）肝っ玉で漕ぐんだとさ、という意味で、「名人は肚（はら）で漕ぐツ」と書かれている例があります。

このように、「つ」と「か」には伝え聞いた事柄や文・歌などの一節を引用する働きと、文の一番終わりに使われるという共通点があります。これに加えて、「～だとさ」、「～だってかあ」と呼応するような意味を持っていることから、意思疎通がうまくいっていることを、「つ」と「か」の組み合わせ「つうかあ」という表現で表すようになったのではないかと考えられます。

「つ」は、今では使われなくなった言葉ですが、時代を経てそれ自体は使われなくなってしまっても、ほかの言葉や表現の一部として残っているというわけです。もともとの意味がわからなくなってしまうと、本来の意味が「つうといえばかあ」という具合にはいなくなってしまうということですね。

(加藤安彦)

談話を通してみる日々の営み

私たちは、日々、さまざまな活動の中でことばを通して回りの人達とやり取りをしています。家庭、ご近所、職場、学校、公園など、なじみ深い場面では、多くの場合、特に意識しなくてもスムーズにやり取りが進むのではないのでしょうか。私たちが日々の営みの中で人々と交わすことばを用いたやり取りを談話と呼びます。談話のパターンは、やり取りが問題なく進んでいる時には、ほとんど意識されません。そこで、さまざまな活動場面の談話を収録し、そこに見られるパターンを浮き彫りにする研究が行われており、その手法を談話分析と呼んでいます。

それでは、さまざまな活動場面で私達はどのような特徴をもつやり取りをしているのでしょうか。活動場面の一例として教室に焦点を当て、多くの国の小学校の授業でごく一般的に見られる談話パターンのひとつについて見てみましょう。

【談話 1】

- ①教師 日本の首都はどこですか？
はい、沙織さん。
②沙織 東京です。
③教師 そうですね。

この談話では、①教師の質問で始まり、②それに対して生徒（沙織）が答えを返し、③教師がその答えに対する評価を与えるという流れがひとつのまとまりになっています。皆さんにもなじみ深いパターンではないでしょうか。アメリカ合衆国の社会言語学者ミーアンは、このパターンを開始—応答—評価の連鎖（Initiation-Reply-Evaluation sequence）と名付け、米国の小学校でも多く見られるパターンであることを報告しています。[文献 1]

【談話 1】で示した例は、この連鎖の最も単純な基本形ですが、実際の教室では様々なバリエーションが見られます。例えば、ミーアンはカリフォルニア州の小学校 1 年生の授業で生じた次のような談話を紹介しています。

【談話 2—邦訳】

- ①教師 はい、この物語の名前は何でしょう。
②生徒 （誰も答えない）
③教師 誰か名前を覚えていないかな？
何についての物語でしょう。
④生徒 （誰も答えない）
⑤教師 お風呂に入ることについての物語ですか？
⑥生徒達 いいえ。
⑦教師 お日さまの光についての物語かな？
⑧生徒達 いいえ。
⑨教師 エドワード、何についてですか？
⑩エドワード 地図です。
⑪教師 地図。
そうですね。
ここに「地図」と書いてありますね。

（文献 1 59-60より邦訳、加筆の上で引用）

この談話では、①で教師が物語の名前を質問することでやり取りを開始していますが、②では生徒から教師が求めている答えが返ってきません。そこで、③で教師は質問を異なる言い回しで繰り返しますが、④でもやはり生徒からの答えは返ってきません。そこで、教師は⑤でわざと間違った答えの候補を挙げて生徒の返答を促します。ここでは質問の形が「名前は何ですか？」という名詞を求める形から、「××についてですか？」と「はい」か「いいえ」を求める答え易いものになっています。⑥で生徒はこの促しに答えて、「いいえ」と返答しており、⑦—⑧ではさらに⑤—⑥と同様のやり取りが繰り返されます。そこで⑨では、教師が一人の生徒（エドワード）を指名して①の質問を繰り返します。すると、⑩ではエドワードが「地図です。」と具体名詞を挙げて答えを返しています。⑪で、教師は、その名詞を繰り返すことによりエドワードの返答を受け取ったことを確認し、「そうですね。ここに地図と書いてありますね。」とその返答が正しい（教師の求めていたものである）

という評価を与えています。【談話1】では最短の3つのターン（注：談話の中でそれぞれの話者が話す順番のこと）で構成されている開始－応答－評価の連鎖が、【談話2】では、その亜型が複数織り込まれて11のターンにまたがって構成されています。

このような、開始－応答－評価の連鎖の様々なバリエーションは教室の談話の典型的な型のひとつとなっていますが、教室の談話には他にも様々な特徴があることがわかっています。例えば、教師と生徒の間を行ったり来たりするやり取りだけでなく、生徒同士が対話的に関わる談話〔文献2〕や、教師が生徒同士のやり取りを促しつつ、論説的語り口の習得を導くような談話〔文献3〕などが報告されています。このような談話パターンは、教室における教授・学習活動のなかでそれぞれ異なる働きをします。教室で、どのような談話パターンがどんな文脈で、どれくらい使われているかということは、教室での営みがどのような教授・学習モデルによって構成されているか、どのような語り口（例えば自然科学的、論説的、詩的、等）を習得する場となっているかということと深く関わっています。そこで、談話を記述・分析することが、教室での日々の営みの特徴を浮き彫りにし、教育実践のあり方を考えることに役立てられています。

教室以外にも私達が日々関わる活動場面にはそれぞれ歴史的に培われてきた特徴的な談話パターンがあります。私達は普段このようなパターンを、ほとんど意識しませんが、私達が意図するか否かに関わらず、談話パターンは、私達の考え方、感じ方、信条のあり方、価値判断の仕方、行動の仕方などと複雑に絡み合いながら、日々の様々な営みを構成し、特定の権力関係をも産み出しています（権力との関係について詳しくは〔文献4〕をご覧ください）。様々な活動場面での談話のパターンを浮き彫りにする談話分析は、私達が参加する活動のあり方を立ち止まって見直し、その豊かさや問題点について考えてみる有効な手立てのひとつです。（當眞千賀子）

〔文献〕

- 〔1〕 Mehan, Hugh (1979) *Learning lessons*. Cambridge, MA.: Harvard University Press.
- 〔2〕 Toma, Chikako. & Wertsch, James. (1990) Socio-cultural approach to mediated action: An analysis of classroom discourse. *Annual Report of Research and Clinical Center for Child Development*, No.13, 69-81.
- 〔3〕 當眞千賀子 (1997) 「社会・文化・歴史的営みとしての談話」 茂呂雄二 (編) 『対話と知－日本語談話の認知科学』 新曜社
- 〔4〕 當眞千賀子 (1999) 「ディスコースと権力」 『月刊言語』 1月号 vol.28 No.1 大修館書店



「敬意表現」とは？

【気配りを表す言葉遣い】

私たちは毎日の暮らしの中でいろいろな気配りをしています。そして、その気配りを言葉に出して言うときが少なくありません。

では、気配りを表す言葉遣いとはどのようなものでしょう？ 具体例で考えてみましょう。

☆待ち合わせの約束時間を急な用事で変更して欲しいと相手に頼むとき

◎「悪いけど、急な用事が入ったので、待ち合わせの時間ずらしてくれない？」

○「待ち合わせの時間ずらして。」

☆他の仕事をしている人にコピーを頼むとき

◎「忙しいときに悪いんだけど、これコピーしてくれない？」

○「これコピーして。」

二組の例のうち、◎印と○印の言い方を比べてみてください。相手への気配りをより強く感じ取れるのは、言うまでもなく◎印の方ですね。

どの部分の言葉がそう感じさせるのでしょうか。

- ①まず、「悪いけど」「忙しいときに悪いんだけど」という言葉遣いです。相手の予定を変更させて迷惑をかけることや、相手の仕事を中断させることを遠慮する気配りを表現しています。
- ②また、「急な用事が入ったので」と言って、時間変更の理由をきちんと言葉にしている点に気配りを感じる人も多いでしょう。
- ③さらに「時間ずらして。」や「コピーして。」と言いつつではなく、「時間ずらしてくれない？」「コピーしてくれない？」のように相手の気持ちを尋ねる言葉遣いをしている点にも、相手への遠慮や気配りが感じられます。

【国語審議会の提唱した「敬意表現」】

このように、◎印の言い方には、いろいろな気配りを表す言葉遣いが含まれています。

種明かしをするようですが、上の二つの◎印の例文は、国語審議会が提唱した「敬意表現」の実例として審議会答申に登場しているものです。

第22期国語審議会は、2000年12月に「現代社会における敬意表現」という答申をまとめ、「敬意表現」

という言葉遣いを提唱しました。

この答申の冒頭部分は以下の通りです。

国語審議会は現代社会の言葉遣いの在り方を考える上で重要な概念として「敬意表現」を提唱する。

敬意表現とは、コミュニケーションにおいて、相互尊重の精神に基づき、相手や場面に配慮して使い分けしている言葉遣いを意味する。

それらは話し手が相手の人格や立場を尊重し、敬語や敬語以外の様々な表現から適切なものを自己表現として選択するものである。

◎印の言葉遣いが表現していた気配りは、上の「敬意表現」の定義のうち、「相手や場面に配慮して」という部分に当てはまります。そうした気配り（配慮）に基づく言葉遣いを国語審議会は「敬意表現」として取り上げたわけです。

【敬語がなくても敬意表現】

ここで、あらためて◎印の言葉遣いを見直してみましょう。注目したいのは、二つの言葉遣いの中に「敬語」が一つも含まれていないことです。

相手に頼む場面ですから、例えば「頼みます」とか「お願いいたします」などのように丁寧語や謙譲語が使えるはずですが、もちろん、敬語を使っても適切な言葉遣いになるのですが、審議会答申は敬語を使わない実例を意識的に挙げて、「敬語だけが敬意表現ではない」「敬語以外の様々な言い方も敬意表現だ」ということを提言しました。

答申は「敬意表現」として、この他にも次のような言葉遣いの例を挙げています。

あいさつやお礼の言葉（「おはよう、ありがとう」など）、前置きの言葉（「悪いけど」「夜分すみません」など）、全国各地の方言の多様な文末表現（「～のう、～なも、～と」など）、さらにはイントネーションや声の種類（優しい声など）などです。いずれもごく普通の言葉遣いです。

毎日の暮らしの中で、敬語だけでなく、こうした様々な「敬意表現」を意識し、大切にしていきたいものです。相手や場面への気配りは、コミュニケーションに欠かせないからです。（杉戸清樹）

「学ぶための日本語」から「生きるための日本語」へ

—外国人受け入れ事情の変化と日本語教育—

一昔前までは日本語を国内で必要とする外国人は留学生と技術研修生、それに所謂専門職につく外国人ビジネスマンとその家族といった、比較的短期間に限られた特定の滞在目的をもつ人に限られていましたが、ここ10年ほどでその様相は変わりました。1970年代から既にインドシナ難民、中国帰国者受け入れが始まっていましたが、平成元年からは「出入国管理及び難民認定法」改正により日系二世、三世等の定住者が増加し、また、日本人の配偶者である等、様々な理由で長期滞在する人が増え、次第に外国人の滞在理由は就業や生活の基盤を日本に置く長期滞在のものへと移行しています。これらの外国人居住者は複数世代で一緒に住むことが多く、家族での安定した日本長期滞在が可能になるにつれ、日本語を必要とする世代が児童から高齢者まで全ての世代に及ぶようになってきています。日本は外国人居住者の受け入れに関しては、外国人居住者や移民が社会の重要構成層をなす欧米諸国に近づきつつあるといえます(表参照)。

表 在留資格別外国人登録者の推移



法務省 ホームページ <http://www.moj.go.jp/> プレスリリース

「平成11年末現在における外国人登録者統計について」

「平成10年末現在における外国人登録者統計について」を基に作成

*1 企業内転勤に数えられるのは、外国にある本店から日本国内にある支店等に転勤し、又は外国にある日本企業の子会社、支店等からその企業の日本国内の本店等に勤務して、技術の在留資格、又は人文知識、国際業務の在留資格に該当する活動を行うとする外国人である。

*2 定住者に数えられるのは、主にインドシナ難民、日系二世、三世等に在留資格が与えられる事業を営んだり、就労したりする外国人である。

日本への留学事情も変化しており、従来からの国費留学だけではなく、私費で留学を希望する学生も増えてきました。特にアジアの学生にとって日本は、アメリカやオーストラリアと並んでもっとも留学したい国の候補となっており、同じアジア文化圏で高等教育を受けることのメリットも海外で浸透してきています。卒業後専門を生かし日本で就職する例も増えてきており、留学生は単に「小さな大使」であるだけでなく日本社会における将来の知的産業層を担う重要な存在になってきています。

このような社会情勢の変化に伴い、日本語教育の内容と方法も、従来の短期滞在型の学習者が対象のものから、定住型の学習者に適するものへと多様化してきています。具体的には、まず教育の場が、高等教育での留学生センターや日本語学校といった、「閉じた教室」だけに限らず、小・中・高等学校のような普通教育や地域行政組織とボランティアを中心とする生涯教育へと広がるようになりました。特に地域行政組織は、どうすれば外国人居住者が地域で生活しやすくなるのか、そのためには何をどう教えればいいのか、ということをも日本語教育の専門家を交えて検討するようになってきています。日本人、外国人を問わず、言葉は住民の生活を安定させるのに欠かせない基盤であり、文化的生活を豊かにする必須のものであるという理解が広がってきているともいえます。

日本語教師の関心も日々変化しています。教師は以前から、日本語の構造の理解と効果的な教授方法の開発に努めてきましたが、現在ではそれに加え、学習者が所属している地域社会が、彼らとどう関わっているのかについて、学習者の視点を持ってより深く理解するよう努めています。教室内で習ったことは外の実社会と結びついていなければ役に立たない、という認識が、日本語教師間に浸透してきているのです。

しかし、このような対応だけではすぐには解決の糸口の見えない問題が国内で起きているのも事実です。例えば特定のエスニックグループが集中して居住している地域の中には、日本語があまりしゃべれなくとも母語で最低限の生活は出来るようになっていくところが出てきたり、逆に外国人児童が普通教

育を受けると日本語は出来ても家族と話すための母語の力が弱くなってしまったりする現象も現われています。

幸いにも日本語教育に関心を持つ人は減少することもなく、また外国人居住者を住民に抱える地域行政組織等も、外国人受け入れ態勢の整備に積極的です。普通に外国人と接することが当たり前になった

日本で、日本語教育に従事する人々は、どのような教育であれば学習者がより安定した生活ができ、より充実した文化的生活を送れるのか、それを実現する具体的な方法は何かを日夜考え、研究と教育実践の場でそれぞれの課題に取り組んでいます。

(菅井英明)

ことばQ&A

Q質問：先日、会社の同僚の結婚披露宴の司会をすることになり、「役不足ではありますが、司会をつとめさせていただきます」とあいさつしたところ、上司に「今の『役不足』は変だよ」と言われました。どういうことでしょうか。

A回答：質問者は、「役不足」を「力不足」と同じような意味、つまりくある役目を果たすには力が足りないこと>という意味だと思っているようです。

しかし本来この語は、<役目が軽過ぎて、力を十分に発揮できないこと。また、そのことへの不満>という、ほとんど正反対の意味なのです。

ですから、質問者はけんそんのつもりで「役不足ではありますが」と言ったわけですが、これは本来の意味からいけば「自分はこんなつまらない仕事をするような人間ではないのですが」「こんなつまらない仕事をしなくてはならないのは不満ではありますが」というたいへん思い上がったセリフになってしまうのです。質問者の上司はそのことを言いたかったのです。

しかしこのような「役不足」の新しい意味はかなり広がっています。人気マンガ『課長 島耕作』(弘兼憲史作・講談社刊)では、両方の意味で使われています。

A「どうだろうキミは秘書では役不足だ……もっ

と責任のある仕事をしてみる気はないか」(11巻・1991年刊)

B「このわしに話をつけにくるんならあんたじゃ役不足や 本社の部長ぐらいひっばってこい！」(7巻・1990年刊)

ともに相手のことを「役不足」だと言っていますが、A(本来の意味)は相手の力を評価し、B(新しい意味)は逆に相手を見下しています。

このようなほとんど正反対の意味で使われている語は、思わぬ誤解を生みかねません。

鈴木「部長、なぜ今回のプロジェクトのメンバーに僕がはいってないんですか」

部長「鈴木君では、役不足だと思ったからだよ」

部長は鈴木君の実力を高く評価し「今回のプロジェクトは簡単過ぎるからメンバーに入れなかった」というつもりで言ったとしても、鈴木君は「お前の力では今回のプロジェクトは無理だと思った」という意味に受け取ってしまうかも知れないのです。

本来の意味とはほぼ正反対の意味で使われることがある語句には、他に「やおら立ち上がる」(ゆっくりと→急に)、「気のおけない人」(気を許していい→気を許せない)などがありますが、これらは使い手の意図どおりに受け手が理解してくれるかどうか、注意して使わなくてははいけないと言えます。(新野直哉)

新刊書目

- 1 国立国語研究所資料集5『沖縄語辞典』(9刷)
国立国語研究所編／2001年3月／財務省印刷局／A5判／5200円(税別)
- 2 『日本語科学9』 国立国語研究所編／2001年4月／国書刊行会／A4判／3680円(税別)
- 3 『日本語教育年鑑2001年版』 国立国語研究所編／2001年6月／くろしお出版／A5判／4200円(税別)
- 4 『談話のポライトネス』(国立国語研究所国際シンポジウム報告書)
国立国語研究所編／2001年6月／凡人社／B5判／2200円(税別)

【国立国語研究所編】

■新「ことば」シリーズ13

『「ことば」を調べる考える』

■新「ことば」シリーズ14

『言葉に関する問答集—よくある「ことば」の質問—』

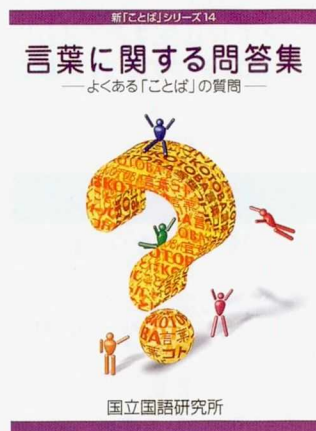
(どちらも、平成13年6月、財務省印刷局発行、A5判96ページ、定価360円(税別))

- ことばに関するいろいろなテーマについてわかりやすく解説する、新「ことば」シリーズの最新刊です。
- みなさんは、ことばについて気になったり、疑問に思ったりしたことを、自分で調べたり、考えてみたりしたことはありますか。そのとき、何をどうやって調べたのでしょうか。ことばに関する本を読んだり、専門家の話を聞いたりして知識を得たかもしれません。それも一つのやり方です。しかし、ことばについてより深く知るためには、それだけでなく、自分の目でことばそのものを客観的にみつめ、そこから何かを発見していくことが、とても大切です。ことばの研究者が行っている「ことばの研究」の進め方には、そんな「自分の目で直接ことばをみつめる」ための考え方や方法がたくさん詰まっています。
- シリーズ13では、「ことば」を調べる考える」というテーマを取り上げました。日常生活の中でことばをみつめ、調べたり考えたりするときの手がかりになれば、と考えて、私たち国立国語研究所の研究者が行っている研究の一端を紹介し、「ことばの研究」の基本的な考え方や方法について、身近な題材をもとにわかりやすく解説しています。

- また、シリーズ14「よくある「ことば」の質問」では、「いちかばちか」は「一か八か」？「一か罰か」？」「つまらない物ですが」という言い方に抵抗があるのですが「常用漢字」ってどんなもの？」といった、ことばについて日常よく聞かれる30の間に、1問1答の形式で解説を加えました。ここでも解説にあたっては、単なる知識の提供にとどまらず、ことばに関する疑問にどう対処すればよいのか、ということ併せて述べています。また巻末には、最近の国立国語研究所の調査研究の結果の一部を「参考資料」として付し、コンパクトな解説付きのデータ集として利用できる形で紹介しました。
 - このシリーズは、各都道府県教育委員会と知事部局の御協力を得て、全国のすべての小学校、中学校、高等学校等の学校と、公立図書館、公民館等の社会教育機関に無償で配布されています。また、市販もしておりますので、ご希望の方は、政府刊行物サービスセンターでお求めになるか、取り扱い書店でご注文ください。(取り扱い書店については、<http://www.pb-mof.go.jp/index.html>を御覧ください。)
- これらの冊子を通じて、「ことば」について調べたり考えたりすることを身近に感じていただければ幸いです。



【内容】座談会 「ことば」を調べる考える (木村義之・福田邦夫・宮澤清治・鷲津名都江・甲斐睦朗)
 解説 ことばにパターンを見る—文法の研究—(井上優)／言語行動を観察する—くり返しのはたらき—(熊谷智子)／ことばの多様性を調べる—社会調査にもとづく研究—(尾崎喜光)／方言の活用表を作る—鶴岡市大山方言の場合—(大西拓一郎)／語の歴史を調べる—“タナゴコロ”を例に—(小椋秀樹)／ことばと実験 (井上優・横山詔一)



【内容】言葉に関する問答集 [問1]「ことば」の研究とはどんな事をするのですか。～[問30]「裸木」という語の読み方を調べたいのですが、インターネットで調べられることはできますか。参考資料 災害時に使う外国人のための日本語案内／白書、広報紙等における外来語の実態／『国語研の窓』「ことばQ&A」[再録]

(新「ことば」シリーズ編集刊行委員会)

国立国語研究所第5回「ことば」フォーラム 「「ことば」ってなんだろう？」(概要)

さる5月12日(土)に、第5回「ことば」フォーラムが国立国語研究所講堂で開催され、約130名の方の参加がありました。今回のテーマは「「ことば」ってなんだろう？」です。講師は、井上優、植木正裕、三井はるみの3名が担当しました。

フォーラムでは、「私たちは日本語が話せるのに、なぜ国語の勉強をやらないといけないのか」、「最近の若者のことばは、何を言っているのかさっぱりわからない」といった、日常生活で感ずる素朴な疑問に答える形で、「ことば」の多様な側面について解説しました。そして、まとめとして、

- ・「ことば」と上手につきあうためには、「ことば」に多様な側面があることを理解することが最も重要である。

ということを述べました。

以下では、「若者ことば」を例として、フォーラムの内容のエッセンスをまとめます。

ことばには次の三つの側面があります。

- 1) 「ことば」は一定のしくみを持った一つのシステムである。
- 2) 「ことば」はコミュニケーションの道具である。
- 3) 「ことば」は使い手一人一人の中にある「ウチなる文化」の一つである。

若者ことばを使わない人にとって、若者ことばの大部分は聞いてもすぐに意味がわからないものです。「ことばはコミュニケーションの道具である」という観点から言えば、「若者ことばはまるっきり違うことばだ」ということになります。

しかし、若者ことばの作り方そのものは、基本的には既存のしくみを応用しているにすぎません。例えば、「ゲーセン」(ゲームセンター)や「スノボ」(スノーボード)などの例に見られる短縮のパターンは、「東大」(東京大学)や「パソコン」(パーソナル・コンピュータ)と全く同じです。「ことばは一つのシステムで

ある」という観点から若者ことばを見れば、「しくみそのものは大した違いはない」という側面が見えてくるのです。

つまるところ、若者ことばは、既存のことばのしくみを応用した一種のことば遊びです。そして、その背景には、「人とコミュニケーションをするための道具は、楽しくて粋な道具の方がいい」という、ごく自然な感覚があります。この点からしても、若者ことばを全面的に否定することは不自然なことといえます。

しかし、若者ことばに違和感を覚える人にとっては、若者ことばのしくみや背景が頭で理解できたからといって、その違和感自体がなくなるわけではありません。それは、「ことば」には、使い手一人一人の中にある「ウチなる文化」の一つであるという側面があるからです。若者ことばをめぐる問題は、本質的に「世代間の文化摩擦」という問題なのです。社会の一員である以上、自らの「ウチなる文化」を主張するだけではなく、自分以外の「ソトなる文化」を尊重することが必要なことはいまでもありません。前述のように、若者ことばを全面的に否定することは不自然なことです。若者ことばに違和感を感じる人がいる以上、若者ことばを全面的に肯定することもまた不自然なことなのです。

このように、若者ことば一つとっても、「ことば」のどのような側面に注目するかで、異なる結論が得られます。しかし、いずれの結論も、「ことば」の多様な側面に即した自然な結論です。「ことば」と上手につきあうということは、異なる結論の間でうまく折り合いをつけながら、とるべき道を探るということにほかなりません。「ことば」をめぐる問題について考える際には、「ことば」に多様な側面があることを常に念頭に置き、一つの結論で満足することなく、むしろ、それを出発点として、「別の観点から見たらどうなるか」を考えることが大切です。

(井上 優)

開催記録

言葉に関するビデオ作品モニター会議「豊かな日本語」
国立国語研究所講堂
2001年3月30日(金)、31日(土) 13:00~16:00

第5回「ことば」フォーラム
国立国語研究所講堂
2001年5月12日(土) 14:00~16:00